



発行
早稲田大学校友会
鹿兒島支部
住所
鹿兒島市金生町3-1
山形屋本部秘書室
☎0992-27-6310(代)

西原総長を薩摩大使に

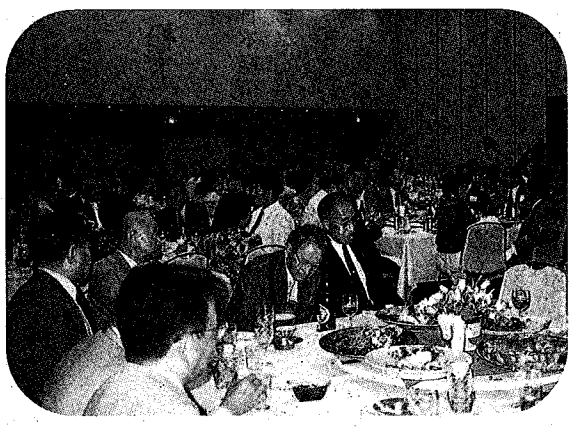
満場一致で可決

早稲田大学 校友会 県支部総会

早稲田大学校友会鹿兒島県支部
総会が、平成二年七月二十八日、
山形屋文化ホールで行なわれた。
本部からの出席者は、総長をは

じめ代表幹事の石黒氏、総合企画
部調査役の浜田氏、秘書の佐藤氏
の四氏が招かれた。
まず、松元県支部長のあいさつ

から始まり、決算報
告、支部規則改正の
件、支部役員選任の



件と順調に進み、今年十一月で任
期を無事終えられる西原総長を薩
摩大使にという案が出され、満場
一致で可決された。
懇親会の方も、総数百五十三名

(内、校友会九十五名、
父兄五十八名)の出席
があり、会場のいすが
足りない場面もあつ



た。
懇親会はなごやかな雰囲気
ゲームなど楽しみながら無事、今
年の総会を終えた。

報告
鹿兒島海陸運送(株)取締役
大西儀用(S59年教育学部卒)



九州

自然歩道

太陽神戸三井銀行
鹿児島支店長

吉澤 忠雄 (S37年商学部卒)

昨年の六月初め、桜島に白い灰が降った日に着任した。新聞も季節外れの雪化粧と報じたのが印象にあり、又これが私と「鹿児島の自然」との出合いの始まりでもあった。

神奈川育ちの私にとって、南国の自然は神秘に満ち、興趣溢れるものである。

路傍の海紅豆やフェニックスは、訪れた者をまず南国情緒に引き込み、ハイビスカスが露地植えで花を咲かせる南薩から佐多岬まで回れば、鹿児島の自然の魅力は倍加する。

着任して三か月間休日を利用して、観光バスで一通り回り、『日本百名山』(深田久弥著)が選ぶ

県内三名山、霧島山・開聞岳・宮之浦岳に登ると、やっと鹿児島の地に足が着いた気分になった。

地理に馴染み、住人として安心感が出来て来た頃「九州自然歩道」の存在を知った。

各県と国が整備した全長二、一〇〇キロメートル、内五五〇キロが鹿児島県内であり、道筋は高千穂峰から大隅半島を佐多まで南下し、山川から薩摩半島を西進北上し、大口から人吉に出る一本の縦貫道である。

一日二五キロずつ歩いても延べ三週間を要し、途中、高隈山系、吹上浜等変化に富む名勝地も多く、雄大かつ魅惑的なコースである。

る。

単身生活に花を添えるつもりでスタートしたのが昨年十月末、JR国分駅から霧島神宮へ向かう半日コースを手始めに選んだ。

稲刈りの済んだ田園地帯を眼前に広がる霧島連山に吸い寄せられる如く神宮まで、特に後半が全く快適な行程であった。

神宮拝殿横にある御神酒が殊更有難く、思わず一人で二度も乾杯してしまった。

以降約一年の間、苦あれば楽ありのコースを三分の二程歩いたが、歩くことに特別なコツはなく、ただ早起きだけは必要である。

鹿児島市内を朝六時台の乗物に

乗らぬと、効率よい日帰りが出来なくなる。一方、乗ってしまえば、一〜二時間で、全くの別世界に運んでくれる。

最近、こんな新聞記事が出た。

「カヌーで本州一周、五二歳の湘南おじさん、週末にコツコツ二年(九月十日南日本新聞)、サラリーマン生活をキッチリ続けながら、四、八〇〇キロの大航海を達成。

実は彼(吉岡嶺二君)は、私と高校の同窓同期で早稲田マン(政経36年卒)である。

来年から九州一周を目指すとか、当地通過時には、私も是非この地で歓待したいものである。

正に、「頑張れ、稲穂の中年シャクトリ虫」。

はるか昔に学校教育を終えた筆者の経験ではあるが、日本の中学・高校の社会科学の授業で、株価、金利、金相場がどのような仕組みで動いているのか、金融資本市場の役割は何なのかは、余り教えられなかったように思う。世界一の「債権国」にふさわしい学校教育での金融資本市場論の充実を願うのは、浅学非才たる凡人だけであろうか。



シリーズ 集まり散して (4)

戦後四十五年

雑感

野村證券鹿児島支店長

松下 一博 (S49年商学部卒)

時の流れは早いもので、今年も終戦から数えて丁度四十五年となる。正に、戦後の焼け野原から出生した新生日本も、今年で満四十五才を迎えたことになるわけである。

人間の人生でいうと四十代は壮年期といわれるが、現在の日本経

済も壮年期の人間に似た性格を持つているように思う。その一つは、日本人の貯えに厚味が増してきたことであろう。日本の個人金融資産残高は、日本人全体の年間所得をはるかに上回る九〇〇兆円以上にも達している。

もう一つは、巡航速度の経済成長である。四十代の人間のように、

野村證券鹿児島支店長

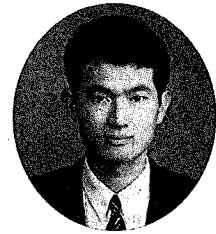
日本経済も速からず遅からずのピッチで拡大しつつある。これは二桁を誇ってきた若き日の昭和三十年代、四十年代とは様変わりといえよう。

こうした壮年期経済の特色は、経済とは裏腹の関係にある金融資本市場にも多大の影響を与えることになる。その最たるものが、自



プラハ雑感

鹿兒島銀行本店営業部
(H2年政経学部卒)



酒匂 康孝

最近、「卒業旅行」というのは大学生の恒例の行事の一つになっ
たらしい。私もご多分に漏れず、
今年三月、東西ヨーロッパを独り
歩いてきた。その中でも特に印象
に残ったのがチェコスロバキアの
首都プラハである。

プラハは、丁度旅程の半ば過ぎ
くらいに訪れた。東ベルリンから
乗った列車がプラハ本駅に着く
と、早速重いリュックをしょって
国営旅行社チエドックに向かう。
そこで知り合った日本人とホテル
をシェアすることにした。こうす
ると独り旅でも宿泊費を安くでき
る。そこで何人もの日本人と知り
合い、また通りを歩いていたら、
驚いたことにゼミの仲間とバッタ
リ会ったのである。お互い声にな
らぬ声をあげて抱き合ったのを今
でも懐しく思い出す。その日の夕
食は街のレストランで、その日知
り合ったばかりの若者が十何人も
集まり、それはにぎやかであった。
プラハの魅力は、中世から、少
しも変わらないその街並みであ

る。同じ社会主義国である東独
ルリンの無機質な建物群と比べ
ると、隔世の感がある。昨年十一
月の民主化革命、いわゆる「ビロ
ー革命」からまだ半年も経って
いなかったが、それを偲ばせるも
の革命で死亡した一青年へのろう
そくの群と、「市民フォーラム」
のTVに群がる人々だけである。
丘の上にはプラハ城がそびえ、モ
ルダウは静かに流れ、夕刻にはカ
レル橋に人々が集まり、民族音楽
を奏でたり絵を描いたりする。そ
の光景は革命以前もそうであつた
ろうし、またこれからもそうであ
り続けるだろう。

「発展」という言葉からは最も

桜島は私の財産

南日本放送アナウンサー
(H1年第一文学部卒)



宇土 美子

皆様、空から灰が降ってくるな
んで信じられるでしょうか。鹿児
島といえば、桜島の灰を思い浮か
べてうんざりといった表情をなさ
る方も多いことでしょう。

私とその鹿児島で社会人として
のスタートをきってから一年半、
時として人々の生活を煩わせる桜

縁遠そうな街であつたが、そうで
あるからこそ最も人間的な街であ
るのかも知れない。たった一泊の
滞在であつたが、「心のふるさと」
と言えるほど充分な感銘を私に残
してくれた。

懐かしの早稲田

南日本新聞社運動部記者
(S62年法学部卒)



古閑 重成

鳥ですが、この生きた山との出会
いは、鹿児島で得た私の大きな財
産なのです。

朝陽を浴びて薄桃色に輝く桜島
を高台から見ると、錦江湾や鹿児
島市内の街並みと一緒に、
その眺めは絶景です。又、天を赤
く染め、ゴウゴウと低い音をたて
て息をしている夜の桜島を目にし
ると、地球は生きているんだとい
うことを実感し、自然に対する人
間のおごりのようなものを知らさ
れたような感じが致しました。

アナウンサーという、言葉を
使って何かを伝える仕事をする私
にとって、感性を磨いていくこと
はとても大切なことです。桜島を
はじめとする鹿児島の迫力ある自

九月の連休中、大学時代の友人
の結婚式に出席するため、約二年
ぶりに上京した。時間にゆとりが
あったので、学生時代を過ごした
早稲田のYMCA寮に行くことに
した。高田馬場から早稲田まで
ゆつくりと歩く。テキストを持っ
て急ぎ男子学生や、おしゃべりを
楽しみながら行く女子学生たちの
姿に、昔の自分が重なる。もっ
とも私はテキストなど買もしな
かったが。昔よく行った喫茶店
はなくなくなり、近代的なビルに
変わっていたが、街の持つ雰囲気
は昔のままだ。

学生街の空気を胸の奥で呼吸し
ながら、やがて四年間を暮らした
昔のままだ。
然し、多くのことを私に語りかけ
てくれます。心の奥底にしまった
ままになっている言葉を呼び起こ
してくれるのです。

人前で話す仕事を始めて一年
半。自分の感じたことを納得いく
言葉に置きかえる難しさを痛感す
る日々です。一言を語るために
もっともつと多くの言葉を心の中
に蓄えたい。

鹿児島で刺激的な人や自然に触
れ、私自身の言葉を少しずつ増や
していきたいと思っています。い
つの日か、自分らしい味とにおい
のする言葉で語ることで話
し手になれるよう一日ごと大事に
時を重ねて参ります。

寮についた。ここは時間が止まっ
たかのように学生時代のままだ。
少しくずれかけたコンクリートの
外壁。雑草のおいしげな前庭。ちっ
とも変わっていない。ロビーでテ
レビを見ていた学生に案内を乞
う。「あー、すいません。62年
卒のコガといいますが、寮母のN
さんいますか」。相手はかわいい
我が後輩。なのについて丁寧語で
しゃべってしまうのは「過ぎ去っ
た時」に対するテレなのかもしれ
ない。

寮母さんと昔語りして時間が過
ぎていく。「今の学生はおとなし
くて、あんたたちの時代とは大違
い」と笑う。早稲田にあこがれ、
中央大学を中退して入学してきた
という後輩が、「まだ一度も校歌
を歌ってないんです」と嘆いて
たのが印象的だった。

そして結婚式。かつてともに痛
飲し、人に言えないような大騒ぎ
をした悪友たちの顔が並ぶ。みん
な少し年をとったが、以前と変わ
らぬ馬鹿話にはほっとする。式も
手づくりで素晴らしい。

時は移ろい、昔のことは懐かし
むことしかできないが、結婚式の
夜みんなで肩を組み歌った「都の
西北」や「早稲田の栄光」は、ま
ぎれもない私たちの青春だ。月明
かりの中、大隈講堂を見上げれば
涙がにじむ、そんな場所と時間を
共有することは素敵なことには違
ない。



いつまでも野人としての早稲田を

早稲田大学校友会鹿兒島支部長
鹿兒島稲門会会長

松元 茂 (S25年政経学部卒)

約三人に一人が大学生である。高等教育が大衆化して、その是非論が叫ばれている昨今である。伝統に輝く母校早稲田は私学の雄として、更に発展し続けなければならぬ。幸いにも八年前創立百周年を迎

学生時代の不思議な写真を一枚持っている。

それは湯沢スキー場で、当時大女優であった水谷八重子・関千恵子さんの記念写真である。

校友・藤安君の祖父が戦前有

名の呉服店を経営されており、友の会の観劇会に水谷八重子さんが招かれ、鹿兒島にたびたび見えていた関係である。その写真

真を今見て驚くことは、早稲田のトンガリ角帽をかぶってスキーしている姿である。当時、大

学進学率は2%という時代で、早稲田の学生としての誇りをもっていたということであろうか。

ある雑誌のデータによれば、

現在日本には大学が約四百校、短大が約六百校あり、その学生数は約二六〇万人、若い世代の

え、二十一世紀における早稲田の在るべき姿が模索され、教育研究体制の改革を

始め施設・設備の改善等は、着々と進行しているようである。

しかし問題点は入試の難しさである。地方からの入学者の減少、女子学生の増加等で早稲田の特徴であった

在野精神が薄らぎつつある。その対策として地方高校推薦制度の導入、スポーツ他一芸に秀でたものの採用など、今以上に思い切った

措置を採用し、野人としての早稲田精神が失なわれないようにして貰いたい。

西原総長は入学式の式辞の中で『秀才というだけで人

間が優れているとは限らない。一個の裸の人間である自覚を持つことが、早稲田人としての出発点である』と知力だけでなく、人間としての総合力と情義を持つことの意味を説いておられる。

世の中は、官から民活への時代へと変わりつつある。正に大隈老侯の目指した在野の指導者・庶民のリーダーとしての早稲田マンの出番である。校友諸兄の御健勝と御活躍を祈ります。



参加者少なく

親睦形式で

今回は、平日ということもあり、参加者も早稲田五人、慶応十人と、いっになくさびしく、コンペ形式にせず親睦の形で行ないました。

初参加は早稲田の春田英一朗氏(日本航空勤務)でスコアも89と、今年入れ替わりで東京に転勤となった馬場氏の補充が出来たと関係者一同喜んでおります。

次回は、まだ未定ですが、皆様の御参加よろしくお願ひ致します。(S59年 教育学部卒)

幹事 大西 儀朋

編集後記

今回はまだ卒業して間もない、今後鹿兒島での活躍が大いに期待される若手にも執筆してもらいました。楽しく読んでいただけましたでしょうか。

ところで総会への出席者も年々増え、今年は九十五名の校友が集まりました。来年は、いよいよ百名を超える出席となりそうです。ただ、鹿兒島に在住しながら事務局の名簿からもれている私友もかなりおられるようです。皆様の職場や身近なところで、そうした校友の情報がありませんでしたら、すぐに事務局へご連絡いただくようお願いいたします。また、会報に対するご意見やご要望もお待ちしております。

会報委員

中村 眞・磯 大作

久保 英司・辛島 史朗

大西 儀朋

連絡先

☎〇九九二一七七一六三二〇(代)事務局まで

<早慶親睦ゴルフ結果>

名 前	アウト	イン	グロス	H.C	ネット	順位	名 前	アウト	イン	グロス	H.C	ネット	順位
1 田貫 敦也(K)	42	43	85	9.6	75.4	優勝	7 玉川 文生(W)	47	48	95	15.6	79.4	7位
2 春田英一朗(W)	49	40	89	13.2	75.8	準優勝	8 石神 兼康(W)	55	51	106	24	82	8位
3 川畑 安弘(K)	46	49	95	16.8	78.2	3位	9 内村 二郎(K)	54	58	112	28.8	83.2	9位
4 川畑 孝則(W)	50	44	94	15.6	78.4	4位	10 中尾 成昭(K)	49	62	111	27.6	83.4	10位
5 本坊 浩幸(K)	48	45	93	14.4	78.6	5位	11 内村 建吉(K)	52	59	111	27.6	83.4	B.B
6 黒崎 桂一(K)	58	57	115	36	79	6位	12 岩下 吉廣(W)	52	52	104	20.4	83.6	B.M